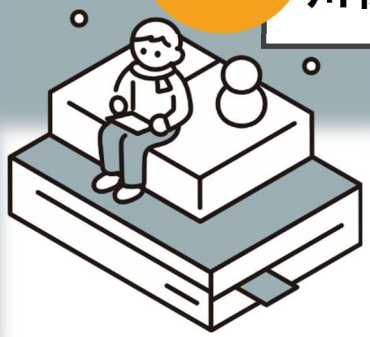
第２回

川根地域公共交通ワークショップ　開催レポート

令和７年２月１３日　@川根地区センターちゃくら



川根地域の将来の公共交通について考えるワークショップの第2回を開催しました。

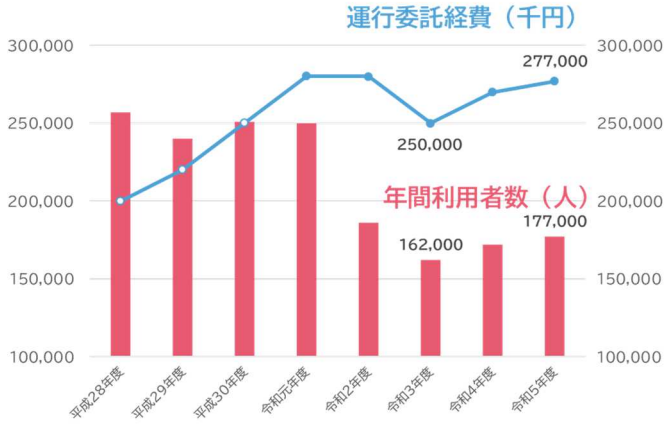
事例紹介（市からの説明）

バス運行の経費が増加し、市が予算の中ですべての交通を担うのは限界になりつつあります。

新しい移動サービスは、内容の決定から運営にかけて、市と地域住民で協力しながら実施したいと考えています。

（“共助型”交通）

地域が主体的に移動サービスの運営にかかわっている事例を2つ紹介しました。

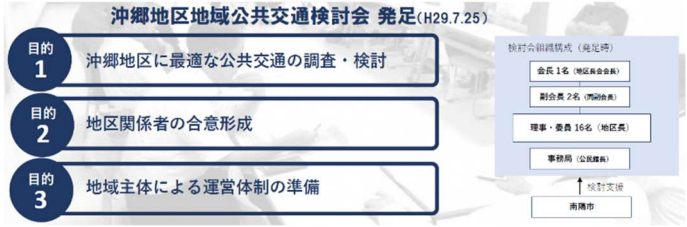


(1) おきタク（山形県南陽市沖郷地区）

自宅から病院やお店まで、片道 500 円でタクシーと同じように乗っていけるサービスです。

沖郷地区の町内会が検討会を発足し、先進事例の視察など調査を重ねたうえで内容を決定しました。

住民の合意を得て、地区の全世帯から年間 200 円の負担金を集金し、運営経費に充てています。



(2) ノッカルあさひまち（富山県朝日町）

地域住民が中心市街地などにお出かけする際、同じ地域の住民が相乗りして移動することができるサービスです。

役場 OB や農家、自営業の方など多くの住民がドライバー登録し、外出予定日時を専用アプリに入力しています。

グループワーク「企画書を作ってみよう」

会場全体に敷かれた川根地域の地図を見ながら、どこでどのようなサービスを実施したらよいか話し合い、企画書の作成にチャレンジしました。

(1) ターゲット、目的、手段を決める

第1回ワークショップの結果から、川根地域における移動課題、および解決するための手段をまとめると右の表のようになります。
ここから各グループが取り組んでみたいものを一つ選びました。

ターゲット	Ⓐ 高齢者	Ⓑ 子ども	Ⓒ 観光客
目的1	Ⓐ-1 地域内の病院に行きたい	Ⓑ-1 島田駅周辺、他市の学校に行きたい	Ⓒ-1 案内をもっとわかりやすくしたい
目的2	Ⓐ-2 買い物に行きたい	Ⓑ-2 地域内の児童館に行きたい	Ⓒ-2 周遊の手段を作りたい

手段		
③ 利用促進・情報発信をしよう	① 新しい移動サービスを作ろう	② 既存の移動サービスを活用しよう
	④ 助け合いのコミュニティを作ろう	⑤ その他

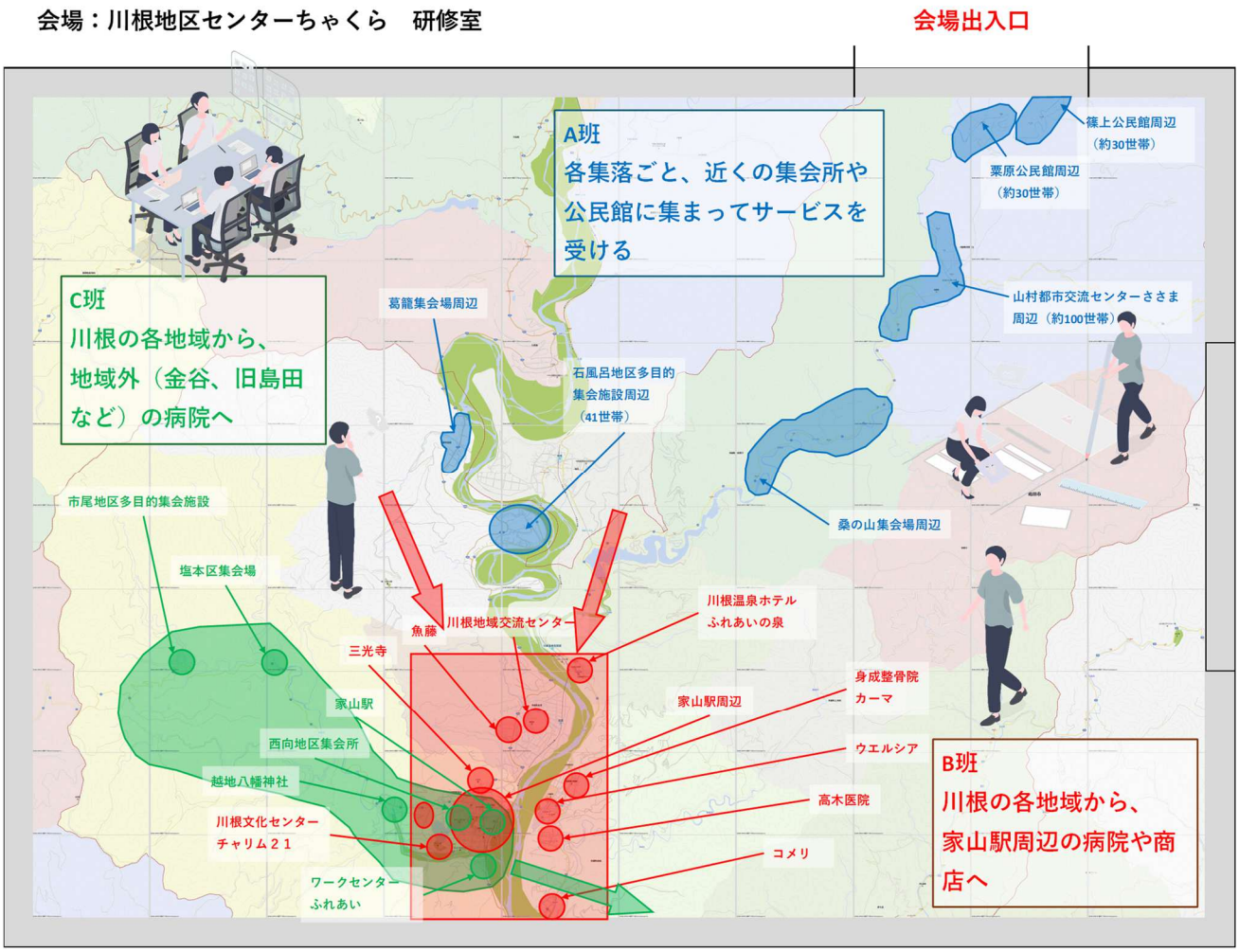
(2) 場所、時間、頻度などを考える

「どこを出発して、どこへ行くか？」「週に〇日、何曜日に実施するか？」「何時に出発して、何時に到着するか？」など、サービスの細かい内容を具体的に考えました。

各グループが考えた内容については、別紙の企画書をご覧ください。
※途中まで作成されています。続きは次回以降のワークショップで議論します。

参加者が描いた「企画の地図」

出発地や目的地、実施場所など、サービスの内容を地図に描いて表現してみました。



※より細かく見たい方は、別紙でご確認ください。

次回のワークショップについて

今回作った企画書をもとに、まだ空欄になっているところを埋めていきましょう。
実現可能な企画を目指して「どのようなサービス内容にするか」「どの程度の費用が掛かるか」「費用をどうやって負担するか」など、さらに細かく話し合っていきましょう。

このレポートを読んで、感想をアンケートに御記入ください。同封の返信用封筒に入れ、３月２１日（金）までに下記事務局まで御返送ください。

公共交通ワークショップ　事務局
島田市　地域生活部　生活安心課　交通防犯係（担当：小松）
〒427-8501　島田市中央町1番の1
電話　0547-36-7144
メール　anshin@city.shimada.lg.jp